

高等学校

令和7年度

教育研究員研究報告書

地理歴史

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究の仮説	2
IV	研究の方法	3
V	研究の内容	5
	〈1 実践事例 I 「歴史総合」指導事例 第2学年〉	6
	〈2 実践事例 II 「歴史総合」指導事例 歴史総合選択者〉	9
	〈3 実践事例 III 「日本史探究」指導事例 第2学年〉	12
VI	研究の成果	15
VII	今後の課題	16

研究主題	社会に見られる課題に対し、デジタルの力を活用しながら学びのプロセスを自ら決定し、史資料に基づき探究するための単元デザインの工夫
------	--

I 研究主題設定の理由

今年度の共通研究テーマは「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」であり、高等学校部会テーマは「全ての生徒の資質・能力を育成する、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた授業改善 ～各教科の見方・考え方を働かせた探究的な学習の実現～」である。

これを踏まえて、高等学校学習指導要領解説地理歴史編及び先行研究を基に、研究主題を検討した。

主題設定にあたり、地理歴史科において育成する資質・能力を次のように整理した。

- 1 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能
- 2 地理や歴史に関わる事象の意味や意義を、幅広い視野で身近なものと結び付けて考察、構想したことを説明したり議論したりする力
- 3 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度。我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚

『『令和の日本型学校教育の構築を目指して』～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～(答申)』(中央教育審議会 令和3年1月26日)(以下、「答申」という。)第I部総論1において、「次世代を切り拓く子供たちに求められる資質・能力として、文章の意味を正確に理解する読解力」が指摘されている。また、学習指導要領解説地理歴史編では、「考察する際の根拠となる資料の扱いが重要」とされている。そのような中、「答申」では、「特に高等学校において生徒の学校生活等への満足度や学習意欲が低下している。」とされる一方、「東京都教育ビジョン(第5次)」(東京都教育委員会 令和6年3月)では、高校段階にある17歳の約7割が社会課題に関心があると回答していることや、教育研究員の授業実践から、現状を次のように捉えることにした。

- 【現状】**
- 1 史資料を基に課題に応じた内容を取りまとめる力が十分ではない。
 - 2 社会に見られる課題について、自身の構想した意見を深化させる力が十分ではない。
 - 3 社会に見られる課題に対して、主体的に解決しようとする態度を身に付けることがより一層求められている。

これらの現状を踏まえて、次のとおり課題をまとめた。

- 【課題】**
- 1 生徒が史資料を正確に読解する学習活動を充実させる必要がある。
 - 2 複数の史資料から自分の意見を構想し、他者と共有する学習活動が必要である。
 - 3 学びのプロセスを生徒が設計できるようにする学習活動を取り入れる必要がある。

以上のことから、本研究では、「社会に見られる課題に対し、デジタルの力を活用しながら学びのプロセスを自ら決定し、史資料に基づき探究するための単元デザインの工夫」を研究主題と設定した。

II 研究の視点

本部会の研究主題について、次の三つの視点で整理した。

1 史資料の収集・取捨選択能力、読解力と課題に応じた内容を取りまとめる力の育成

答申では、次世代を切り拓く子供たちに求められる資質・能力として「文章の意味を正確に理解する読解力」が挙げられ、また、高等学校学習指導要領地理歴史（平成30年3月）にも「考察する際の根拠となる資料の扱いが重要」（第1章第2節1の歴史総合・日本史探究・世界史探究のオ）とされている。そのため本研究では、歴史学習において収集・取捨選択した史資料を基に正確に読解した内容を取りまとめる学習活動の充実を図ることとした。

2 社会に見られる課題について、協働することで自分の意見を深化させる力の育成

「令和5年度教育研究員研究報告書地理歴史」では、「グループ内の意見共有を行うことで、現在につながる諸課題の解決策を見いだすことはできた」とした一方、「グループ内で出た諸課題の解決策から個人の意見に反映させる学習活動を検討する必要がある。」としている。

これらを踏まえ、本研究では、地理や歴史に関わる事象の意味や意義を、幅広い視野で身近なことと結び付けて考察、構想したことを他者との共有により深化させることを目的とし、デジタルの力を活用して、対話的な学びを促し、効率的・効果的に他者と意見を共有できる学習活動を充実させることとした。

3 学びのプロセスを自ら設計するためのデジタルの活用

令和6年度 東京都教育委員会研究開発委員会「デジタルを活用したこれからの学び」（デジタルを活用したこれからの学び研究開発委員会）は、「自ら主体的に目標を設定し、振り返り、自己調整しながら責任ある行動がとれる力を身に付けること」で、「教師は、『自立した学習者』として児童・生徒を育成する必要がある」と示している。そのため本研究では、デジタルの力を活用し、取り組む課題や活用する史資料など学ぶプロセスを生徒が決定し、瞬時に共有できる工夫を行うことで、主体的に課題を解決しようとする態度を身に付けた「自立した学習者」の育成を目指すこととした。

III 研究の仮説

本研究における仮説を次のように設定した。

仮説1 自ら史資料を収集・取捨選択し、複数の史資料を読解する学習活動に取り組むことにより、課題に応じた内容を取りまとめる力を身に付けることができる。

仮説2 社会に見られる課題について、複数の史資料から自分の意見を構想し、デジタルの力を活用して他者と共有することにより、構想した意見を深化させることができる。

仮説3 デジタルの力を活用して学びのプロセスを生徒が設計できるようにすることで、主体的に課題を解決しようとする態度を身に付けることができる。

IV 研究の方法

本研究では、上述の現状と課題を解決するため、先行研究における様々な指導方法に加え、学びを自己調整することの重要性に着目した指導の工夫を行うこととした。具体的には、主体的に目標を設定し、自らの学びを振り返り、自己調整しながら学びのプロセスを決められる「学びのプロセス」ファイルを作成し、用いることにより、個別最適な学び、協働的な学びが促進されると考えた。

「学びのプロセス」ファイルはデジタル上で自身の学びを記録する「個人ワークシート」と個人ワークシートに記入した内容が反映され、授業者、生徒が学習状況をリアルタイムで共有できる「共有シート」の2種類のワークシートで構成されており、即時性に優れている。単元の導入で個人ワークシートの取り組み方のマニュアルを用いて生徒にガイダンスを行う。共有シートを用いて生徒の考えを生徒・授業者が共有できるように工夫することで、構想した自分の意見を深化させることをねらいとしている。また、生徒は他の生徒の取組からヒントを得るなど対話的な学びを深めることもできる一方、授業者は生徒の学習計画や取組状況を見て、個別最適な支援がしやすくなる。このように、「学びのプロセス」ファイルは、デジタルの力を活用しながら個別最適な学びと協働的な学びを一体的に促進できることに意義がある。また、手順のマニュアル化によって生徒の自立した学習を促すことで授業者についても従来の授業方法に比べ、より多くの時間を生徒それぞれの学習進度や習熟度に応じた個別の指導・支援に充てられるようになる。

1 具体的方策

本研究の仮説を検証するため、次のとおり学習活動を設定し、成果と課題をまとめる。

- (1) 問いに対して自ら史資料を収集・取捨選択し、史資料を効果的にまとめる力を身に付けることができる「学びのプロセス」ファイルを作成し、生徒に個人ワークシートを記録させる。(図1参照。MQは「単元を貫く問い」、SQは「MQを考える手掛かりとなる問い」)

個人ワークシート							図 1	
MQ	帝国主義政策は、国際社会にどのような影響を及ぼしたのだろうか。							
仮説	世界中での植民地獲得競争とそれに伴う戦争を生んだ。							
初案	19世紀に帝国主義政策を推し進め、経済的な繁栄を手にしたイギリスをモデルとして、ヨーロッパを中心とした各国で植民地を獲得する動きが起きた。また、結果的にそれに伴う戦争が発生した。							
最終案								
SQ	1	【No13 SQ】 日清戦争により、日本・清・朝鮮の国際関係は、どのように変化したのだろうか					⑤「計画通り」か、「調整必要」か、を選択します。	
	2	【No14 SQ】 帝国主義の時代、日本にとってロシアの南下政策は、どのような影響を与えるのか?						
	3	【No15 SQ】 日露戦争の結果は、国民の対外意識をどのように変化させ、後の人々にどのような考えや課題をもたらすか						
	4	【No16 SQ】 日露戦争の結果は、アジアの民族運動にどのような影響を与えたのだろうか						
	5	その他(自分で記入)						
学習に取り組む日	SQ番号	SQ	根拠となる資料①	根拠となる資料②	根拠に基づいた自分の考え	MQにつながる内容(メモ)	今日の進捗状況	調整が必要な場合はどのように調整するか記入する
10月15日	1	【No13 SQ】 日清戦争により、日本・清・朝鮮の国際関係は、どのように変化したのだろうか	資料 1	下関条約	日清戦争の結果、日本は下関条約で朝鮮の独立を国際的に認めさせ、清を中心とする冊封体制		計画通りでした	
①その日に学習する問いの番号を入力します。		②問いを考える際に根拠にした資料番号(もしくは資料の名称)を入力します		③自分なりの問いの答えを入力します。		④今回の問いからMQにつながる内容を入力します。また、MQを答えるにあたり、今回の学習を通して生まれた疑問点やメモをしたい内容を入力します。		⑥「調整が必要」を選んだ場合、どのような点を調整する必要があるのかを、具体的に入力します。

- (2) 社会に見られる課題を考えるために設定した単元を貫く問い（MQ）に対し、複数の史資料に基づいて自分の意見をもたせ、一人1台端末を活用して共有シートを他者と共有できるようにすることで、自己の考えを変容させたり、深化させたりする活動時間を設定し、「学びのプロセス」ファイルに記録させる。（図2参照）

共有シート													
21				22				23					
10月15日	SQ	資料1	資料2	考え	SQ	資料1	資料2	考え	SQ	資料1	資料2	考え	
1	日清戦争	下関条約	日清戦争によって開港場が設けられ、朝鮮が独立した。	1	資料1	下関条約	日清戦争の結果、日本は下関条約で朝鮮の独立を国際的に認めさせ、清を中心とする開港場が設けられた。これを機に日本は台湾を侵略して列強の仲間入りをした。一方の朝鮮は露清上の協定も	1	no13(5)	no13(8)15)	日本と清の関係は円滑ではなかった。朝鮮は日本から不利益を被る不平等な関係にあった。その後朝鮮の支配権をめぐる上下関係へと変わる。		
10月22日	SQ	0	0	決断になった際に、	0	0	0	0	2	no14(2)	no14(8)	極東地域にもロシアが南下してきたとき日本はロシアを脅威存在と感知、戦争へと発展していく可能性があった。	
10月22日	SQ	0	0		0	0	0	0	3	no15(1)	0	露清に勝利したことへの自信と誇りを生じた。その後に帝國主義的野心を伸ばすようになり、さらなる軍事的拡大に戦争へと繋がると考えられる。	
10月29日	SQ	0	0		0	0	0	0	4	no15(9)	0	日露戦争の勝利により露清対露の極東支配に苦しんでいた露清人権は再興を志した。これにより、独立や改革を求め露清運動が高まった。	
初案	①各生徒の取組状況を確認・共有できる。 ・取り組んでいるSQ ・参考資料 ・考え ・進捗状況				19世紀に帝國主義政策を推進し、経済的な緊縮を手にしたイギリスをモデルとして、ヨーロッパを中心とした各国で植民地を獲得する動きが起きた。また、結果的にそれに伴う戦争が発生した。				帝國主義政策が盛ることによって、各国に上下関係が生まれ、脅威存在が確立する。それを恐れた国々が同盟を作り、同盟士のグループが戦争になる。戦争の勝利により国境は自国と誇りを誇り、植民地支配に苦しんでいた人は独立、改革を求め露清運動を起し、さらなる軍事的拡大で戦争が激化する。				
最終案					②MQに対する各生徒の考えを共有できる。 ・初案：SQに取組む前に考えたこと ・最終案：単元の最後に考えた意見				帝國主義政策が盛ることによって、各国に上下関係が生まれ、脅威存在が確立する。それを恐れた国々が同盟を作り、同盟士のグループが戦争になる。戦争の勝利により国境は自国と誇りを誇り、植民地支配に苦しんでいた人は独立、改革を求め露清運動を起し、さらなる軍事的拡大で戦争が激化する。これらことから、各国の経済的困窮や露清の対露運動を促すことが、戦争による軍事的拡大で得る利にな				

- (3) 一人1台端末を活用しながら生徒による学びのプロセスの決定から、学習内容の振り返りまでの一連の流れを生徒と教員が常に確認し調整できる「学びのプロセス」ファイルを作成し、生徒に記録させる。

2 検証方法

仮説を検証するため、単元指導の前後で、生徒を対象としたアンケート調査を実施する。アンケート調査の結果や「学びのプロセス」ファイルの記述を基に、生徒がどのように変容したか、以下の観点で見取るとともに分析を行う。

- 生徒が収集・取捨選択した史資料をどのように読み取り解釈したか。
- 自分の意見や生徒間共有による意見の変化があるか。
- 生徒による学びのプロセスの設計が、主体的に課題を解決しようとする態度につながっているか。

※アンケート項目

①問いに対して自分で考えて史資料を収集・取捨選択している。
②複数の史資料から分かることを効果的にまとめている。
③自分が考えたことを、言葉や文章で表現している。
④他の人と相談して、自分の考えを深めるようにしている。
⑤分からないことがあっても、そのままにせず解決しようとしている。
⑥今まで自分で計画を立てたり、計画を見直したりしながら学習を進めてきたことがある。

V 研究の内容

研究構想図

共通研究テーマ 「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」

高校部会テーマ

「全ての生徒の資質・能力を育成する、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた授業改善」
～各教科の見方・考え方を働かせた探究的な学習の実現～

高等学校地理歴史科において育成を目指す「資質・能力」について

- ① 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ② 地理や歴史に関わる事象の意味や意義を、幅広い視野で身近なことと結び付けて考察、構想したことを説明したり議論したりする力を養う。
- ③ 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。

高等学校学習指導要領 地理歴史編

高校部会テーマにおける現状と課題

【現状】

- ① 史資料を基に課題に応じた内容を取りまとめる力が十分ではない。
- ② 社会に見られる課題について、自身の構想した意見を深化させる力が十分ではない。
- ③ 社会に見られる課題に対して、主体的に解決しようとする態度を身に付けることがより一層求められている。「東京都教育ビジョン第5次」（東京都教育委員会）、『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）

【課題】

（中央教育審議会 令和3年1月26日）

- ① 生徒が史資料を正確に読解する学習活動を充実させる必要がある。
- ② 複数の史資料から自分の意見を構想し、他者と共有する学習活動が必要である。
- ③ 学びのプロセスを生徒が設計できるようにする学習活動を取り入れる必要がある。

高等学校地理歴史部会研究主題

社会に見られる課題に対し、デジタルの力を活用しながら学びのプロセスを自ら決定し、史資料に基づき探究するための単元デザインの工夫

仮 説

- ① 自ら史資料を収集・取捨選択し、複数の史資料を読解する学習活動に取り組むことにより、課題に応じた内容を取りまとめる力を身に付けることができる。
- ② 社会に見られる課題について、複数の史資料から自分の意見を構想し、デジタルの力を活用して他者と共有することにより、構想した意見を深化させることができる。
- ③ デジタルの力を活用して学びのプロセスを生徒が設計できるようにすることで、主体的に課題を解決しようとする態度を身に付けることができる。

研究方法

【具体的方策】

- ① 問いに対して自ら史資料を収集・取捨選択し、史資料を効果的にまとめる力を身に付けることができる「学びのプロセス」ファイルを作成し、生徒に個人ワークシートを記録させる。
- ② 社会に見られる課題を考えるために設定した単元を貫く問い（MQ）に対し、複数の史資料に基づいて自分の意見をもたせ、一人1台端末を活用して他者と共有できるようにすることで、自己の考えを変容させたり、深化させたりする活動時間を設定し、「学びのプロセス」ファイルに記録させる。
- ③ 一人1台端末を活用しながら生徒が自ら学びのプロセスを決定し、学習した内容を生徒と教員が常に確認し調整できる「学びのプロセス」ファイルを作成し、生徒に記録させる。

【検証方法】

- ① 生徒が記録した「学びのプロセス」ファイルやアンケートを分析し、生徒が収集・取捨選択した史資料をどのように読み取り解釈したかを見取る。
- ② 生徒が記録した「学びのプロセス」ファイルやアンケートを分析し、自分の意見や生徒間共有による意見の変化を見取る。
- ③ 生徒が記録した「学びのプロセス」ファイルやアンケートを分析し、生徒による学びのプロセスの設計が、主体的に課題を解決しようとする態度につながっているかを見取る。

実践事例 1 「歴史総合」

教科名	地理歴史	科目名	歴史総合	学年	第2学年
-----	------	-----	------	----	------

(1) 単元名、使用教材

- ア 単元名 国民国家と明治維新
- イ 使用教材 教科書、資料集、授業ワークシート

(2) 単元の目標

- ア 18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向、日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に立憲体制と国民国家の形成を理解するとともに、自ら史資料を収集・取捨選択し、複数の史資料を読解することで、課題の解決に向けて必要な情報を取りまとめる技能を身に付ける。
- イ 国民国家の形成の背景や影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などについて自分の意見を構想し、他者と共有しながら深化させた意見を表現する。
- ウ 国民国家と明治維新について、主体的に課題を解決しようとする態度を養う。

(3) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
・18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向、日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解し、自ら史資料を収集・取捨選択し、複数の史資料を読解することで、課題の解決に向けて必要な情報を取りまとめる技能を身に付けている。	・国民国家の形成の背景や影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などについて自分の意見を構想し、他者と意見を共有しながら、深化させ、表現している。	・国民国家と明治維新について、見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら主体的に課題を追究しようとしている。

(4) 単元の指導と評価の計画（7時間扱い）（○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」）

時間	学習活動	評価の観点			評価規準 (評価方法など)
		ア	イ	ウ	
【単元を貫く問い（MQ）】 欧米で生まれた国民国家は、なぜ日本をはじめ世界へ広がったのだろうか					
第1時	<ul style="list-style-type: none"> ・国民国家と明治維新について、MQに対する仮説を立て学習の見通しをもつ。 ・MQを考える手掛かりとなる問い(SQ)を基に学習計画を立てる。 			●	<ul style="list-style-type: none"> ・MQに対する仮説を立て、自分の意見を構想するために必要な学習計画を立てている。 【「学びのプロセス」ファイル】(ウ)
	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の計画に基づいて授業ワークシート内の史資料やインターネット等から、自ら史資料を収集・取捨選択する。 ・複数の史資料を読み、立憲体制と国民国家の形成について理解する。 ・MQに関する様々な情報をまとめる。 	●	○		<ul style="list-style-type: none"> ・立憲体制と国民国家の形成を理解している。 【定期考査】(ア) 一知識 ・自ら史資料を収集・取捨選択し、複数の史資料を読解することで、課題の解決に向けて必要な情報を取りまとめる技能を身に付けている。 【「学びのプロセス」ファイル】(ア) 一技能

第2時 ～ 第6時 (本時)	【単元を貫く問いを考える手掛かりとなる問い (SQ)】 (授業ワークシートで提示した史資料) ①革命に参加した人々は、どのような社会を目指したのか (『独立宣言』、『人権宣言』など9点) ②欧米における国民国家の形成は世界にどのような影響を与えたか (『ドイツ国民に告ぐ』など7点) ③日本は明治維新でどのように国民国家の形成を目指したのだろうか (『大日本帝国憲法』など9点) ④日本はなぜ国民国家の形成を目指したのだろうか (『学問のすゝめ』、『19C末東南アジアの地図』など8点)			
	・その日の学習を振り返り、次時に向け学習計画を調整する。		●	・国民国家と明治維新について自分の意見を構想するために、学びの見通しを立てて、学習計画を調整している。【「学びのプロセス」ファイル】(ウ)
第7時	・MQに対する自分の意見を構想し、他者と意見を共有することで考えを深化させ、その内容を表現する。		○ ○	・国民国家の特徴や社会の変容などについて、自分の意見を構想し、他者との共有を通して深化した自分の意見を表現している。 【「学びのプロセス」ファイル】(イ) ・課題について、学習の振り返りを行っている。 【「学びのプロセス」ファイル】(ウ)

(5) 本時 (全7時間中の3時間目)

ア 本時の目標

- ・自ら資料を収集・取捨選択し、複数の史資料を読解する学習活動を通して、立憲体制と国民国家の形成を理解するとともに、課題の解決に向けた内容をまとめる。
- ・学習を振り返り、次時に向け学習計画を調整する。

イ 本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法
5分	・前時に立てた学習計画を確認し、本時の学習の見通しを立てる。	・これまでの学習で生まれた疑問をその時間の取り組む課題としてもよいことを伝える。	
30分	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の学習計画に沿って学習を進める。 [考えられる学習活動] ・教科書を読み、授業ワークシート内の学習内容チェックの課題に取り組む。 ・各自の計画に基づいて授業ワークシート内の史資料やインターネット等から、自ら史資料を収集・取捨選択する。 ・収集・取捨選択した複数の史資料を読む。 ・課題の解決に向けて必要な情報をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びのプロセス」ファイル内の共有シートを活用し、他の生徒の学習内容の確認、状況に応じて協働学習を行い自分の考えを比較することができるように助言をする。 ・あらかじめ複数資料を提示し、その中からも収集・取捨選択できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・立憲体制と国民国家の形成を理解している。 【定期考査】(ア) 一知識 ・自ら史資料を収集・取捨選択し、複数の史資料を読解することで、課題の解決に向けて必要な情報を取りまとめる技能を身に付けている。【「学びのプロセス」ファイル】(ア) 技能
10分	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びのプロセス」ファイル内の個人ワークシートに本時の学習の成果を入力する。 ・本時の学習を振り返り、次回に向けての学習計画を調整し、学習の見通しを立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びのプロセス」ファイルを活用し、何人かの学習の成果を紹介することで、共有する。 ・学習計画を調整する際、他の生徒の学習記録なども確認するように指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国民国家と明治維新について、自分の意見を構想するために、学びの見通しを立てて、学習計画を調整している。 【「学びのプロセス」ファイル】(ウ)

(6) 本時の振り返り

提示した史資料に加えて、教科書や資料集、インターネット等から自発的に史資料を収集し、それを自らの意見の根拠とした生徒も見られた。また、共有シートを活用して、同じSQに取り組む生徒を見付け、意見を聞いたり、協働して学習を進めたりする生徒も見られた。

(7) 単元の振り返り

仮説1～3について、単元の始まりと終わりに実施したアンケートの結果を分析した。

ア 仮説1に関する分析

「問いに対して自分で考えて史資料を収集・取捨選択している。」				
	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
単元始	7%	21%	36%	36%
単元終	54%	31%	15%	0%
「複数の史資料から分かることを効果的にまとめている。」				
	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
単元始	0%	29%	36%	35%
単元終	31%	46%	15%	8%

肯定的な回答をした生徒が増加している。また、以下の生徒の記述等からも、単元を通して仮説1で求められた力を身に付けさせることができたと分析できる。

生徒AのSQ1に対する回答
(選択した資料 『寺子屋の様子』、『明治初めの頃の小学校の授業の様子』、『西南戦争』) 徴兵令や地租改正、教育の普及などにより国民を統治下に組み込み、近代的な国民国家を目指した。

イ 仮説2に関する分析

「自分が考えたことを、言葉や文章で表現している。」				
	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
単元始	14%	64%	14%	8%
単元終	38%	38%	9%	15%
「他の人と相談して、自分の考えを深めるようにしている。」				
	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
単元始	7%	21%	15%	57%
単元終	16%	38%	31%	15%

比較的肯定的な回答が増加している。以下の生徒の記述の変容からも、仮説2について一定の成果があったと考えられる。

生徒BのMQに対する初案と最終案	
共有前	フランス革命から国民国家という考えが広まり、いろいろな国で革命が起き独立する国が増えた。国民が全ての人間の自由と平等を目指すようになって国民国家が増えていった。強い国に負けないようにするために真似をして広まった。
共有後	フランス革命から国民国家という考えが広まり、…(中略(上と同じ))…。日本も他の国に負けないように天皇中心に国民国家を目指した。

ウ 仮説3に関する分析

「今まで自分で計画を立てたり、計画を見直したりしながら学習を進めてきたことがある。」				
	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
単元始	7%	50%	22%	21%
単元終	36%	36%	28%	0%

肯定的な回答が増加しており、仮説3について一定の成果があったと分析できる。

また、個人ワークシートの記述によると、約25%の生徒は、最初に立てた学習計画から一度も調整することなく学習を進められたとした。一方、約75%の生徒は、2回以上学習計画の調整が必要であったとした。学習計画を調整した理由としては、時間が不足し計画通りに進まなかったことを挙げるものが多かった。授業中に生じた疑問点を解消するために調整したり、「学びのプロセス」ファイルに対する授業者からのフィードバックに取り組むために調整したりする記述も多く見られた。一方、計画通りに進められたとした生徒であっても、自らの学習活動を適切に評価できているか見取ることが、今後の課題である。

実践事例2「歴史総合」

教科名	地理歴史	科目名	歴史総合	学年	—
-----	------	-----	------	----	---

(1) 単元名、使用教材

ア 単元名 近代化が進む日本と東アジア

イ 使用教材 教科書、授業ワークシート

(2) 単元の目標

ア 列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争を基に、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解するとともに、自ら史資料を収集・取捨選択し、複数の史資料を読解することで、課題の解決に向けて必要な情報を取りまとめる技能を身に付ける。

イ 帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジアに与えた影響に着目して、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などについて自分の意見を構想し、他者と共有しながら深化させた意見を表現する。

ウ 列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容について、主体的に課題を解決しようとする態度を養う。

(3) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
・列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争を基に、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解し、自ら史資料を収集・取捨選択し、複数の史資料を読解することで、課題の解決に向けて必要な情報を取りまとめる技能を身に付けている。	・帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジアに与えた影響に着目して、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などについて自分の意見を構想し、他者と意見を共有しながら、深化させ、表現している。	・列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容について、見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら主体的に課題を追究しようとしている。

(4) 単元の指導と評価の計画（6時間扱い）（○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」）

時間	学習活動	評価の観点			評価規準 (評価方法など)
		ア	イ	ウ	
【単元を貫く問い（MQ）】帝国主義政策は、国際社会にどのような影響を及ぼしたのだろうか					
第1時	<ul style="list-style-type: none"> ・列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容について、MQに対する仮説を立て学習の見通しをもつ。 ・MQを考える手掛かりとなる問い（SQ）を基に学習計画を立てる。 			●	<ul style="list-style-type: none"> ・MQに対する仮説を立て、自分の意見を構想するために必要な学習計画を立てている。 【「学びのプロセス」ファイル】（ウ）
第2時 ～ 第5時 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の計画に基づいて、授業者があらかじめ提示した授業ワークシート内の史資料やインターネット等から、自ら史資料を収集・取捨選択する。 ・収集・取捨選択した複数の史資料を読み、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容について理解する。 ・MQに関する様々な情報をまとめる。 ・その日の学習を振り返り、次時に向け学習計画を調整する。 ・日清戦争、南下政策、日露戦争、アジアの民族運動について理解する。 	●	○	●	<ul style="list-style-type: none"> ・列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解している。 【定期考査】（ア）—知識 ・自ら史資料を収集・取捨選択し、複数の史資料を読解することで、意見の構想に必要な情報をまとめる技能を身に付けている。 【「学びのプロセス」ファイル】（ア）—技能 ・帝国主義政策とアジア諸国の変容について自分の意見を構想するために、学びの見通しを立てて、学習計画を調整している。 【「学びのプロセス」ファイル】（ウ）

<p>【単元を貫く問いを考える手掛かりとなる問い（SQ）】（授業ワークシートで提示した史資料）</p> <p>①日清戦争により、日本・清・朝鮮の国際関係は、どのように変化したのだろうか。（「魚釣り遊び」、など7点）</p> <p>②帝国主義の時代、日本にとってロシアの南下政策はどのような影響を与えたのか。（「滑稽欧亜外交地図」など8点）</p> <p>③日露戦争の結果は、国民の対外意識をどのように変化させ、後の人々にどのような考えや課題をもたらしたと考えられるか。（「列強クラブの仲間入り」など8点）</p> <p>④日露戦争の結果は、アジアの民族運動にどのような影響を与えたのだろうか。（「日米対立の風刺画」など9点）</p>				
第6時	<p>・MQに対する自分の意見を構想し、他者と意見を共有することで考えを深化させ、その内容を表現する。</p>	○	○	<p>・帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などについて、自分の意見を構想し、他者との共有を通して深化した自分の意見を表現している。</p> <p>【「学びのプロセス」ファイル】（イ）</p> <p>・課題について、学習の振り返りをしている。</p> <p>【「学びのプロセス」ファイル】（ウ）</p>

(5) 本時（全6時間中の4時間目）

ア 本時の目標

- ・ 自ら資料を収集・取捨選択し、複数の史資料を読解する学習活動を通して、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解するとともに、課題の解決に向けて必要な情報をまとめる。
- ・ 学習を振り返り、次時に向け学習計画を調整する。

イ 本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法
5分	<p>・前時に立てた学習計画を確認し、本時の学習の見通しを立てる。</p>	<p>・これまでの学習で生まれた疑問をその時間の取り組む課題としてもよいことを伝える。</p>	
20分	<p>・学習計画に沿って学習を進める。 [考えられる学習活動]</p> <p>・教科書とノートアプリを使用して授業スライドから、授業ワークシート内の学習内容チェックの課題に取り組む。</p> <p>・各自の計画に基づいて授業ワークシート内の史資料やインターネット等から、自ら史資料を収集・取捨選択する。</p> <p>・収集・取捨選択した複数の史資料を読む。</p> <p>・意見の構想に必要な情報をまとめる。</p>	<p>・「学びのプロセス」ファイル内の共有シートを活用し、生徒自身が他の生徒のこれまでの学習などを確認、状況に応じて協働学習を行い自分の考えを比較することができるように助言をする。</p> <p>・あらかじめ複数資料を提示し、その中から収集・取捨選択できるようにする。</p>	<p>・列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解している。</p> <p>【定期考査】（ア）—知識</p> <p>・自ら史資料を収集・取捨選択し、複数の史資料を読解することで、意見の構想に必要な情報を取りまとめる技能を身に付けている。【「学びのプロセス」ファイル】（ア）技能</p>
15分	<p>・日露戦争における日本の政策を軍事面・外交面・経済面からまとめたスライドを確認する。</p> <p>・地図を活用し、長春以南、樺太の位置関係をつかむ。</p>	<p>・授業プリントの解説を行う。</p> <p>・「領土の画定」で取り扱った内容を振り返りつつ、南樺太もロシアと国際的に確定されたことに気付かせる。</p>	<p>・本時で学んだことを課題フォームに入力して提出する。</p> <p>【アンケート】（ウ）</p>
10分	<p>・個人ワークシートに本時の学習の成果を入力する。</p> <p>・本時の学習を振り返り、次回に向けての学習計画を調整し、学習の見通しを立てる。</p>	<p>・「学びのプロセス」ファイルを活用し、何人かの学習の成果を紹介し、共有する。</p> <p>・学習計画を調整する際、他の生徒の学習記録なども確認するように指示をする。</p>	<p>・近代化が進む日本と東アジアについて自分の意見を構想するために、学びの見通しを立てて、学習計画を調整している。 【「学びのプロセス」ファイル】（ウ）</p>

(6) 本時の振り返り

多くの生徒は用意された史資料以外にも教科書を活用して構想に必要な図や表、史料を収集・取捨選択していた。動画コンテンツ、インターネットや生成AIを活用している生

徒もおり、共有シートを参考に、他者の意見を参考にしながら理解を深めていく生徒もいた。

(7) 単元の振り返り

仮説1～3について、単元の始まりと終わりに実施したアンケートの結果を分析した。

ア 仮説1に関する分析

「問いに対して自分で考えて史資料を収集・取捨選択している。」				
	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
単元始	15%	24%	32%	29%
単元終	7%	69%	21%	3%
「複数の史資料から分かることを効果的にまとめている。」				
	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
単元始	3%	35%	32%	30%
単元終	14%	62%	21%	3%

肯定的な回答をした生徒が増加している。また以下の生徒の記述等からも、単元を通して仮説1で求められた力を身に付けさせることができたと分析できる。

生徒AのSQ1に対する回答	
(選択した資料 『日清戦争』、『下関条約』、『列強クラブの仲間入り』)	
日清戦争の結果、日本は下関条約で朝鮮の独立を国際的に認めさせ、清を中心とする冊封体制を崩壊させた。これを機に日本は台湾を獲得して列強の仲間入りを進め、一方の朝鮮は名目上の独立を保ちながらも、次第に日本の影響下に置かれていった。	

イ 仮説2に関する分析

「自分が考えたことを、言葉や文章で表現している。」				
	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
単元始	23%	46%	19%	12%
単元終	31%	59%	10%	0%
「他の人と相談して、自分の考えを深めるようにしている。」				
	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
単元始	12%	26%	24%	38%
単元終	3%	48%	28%	21%

肯定的な回答が増加している。以下の生徒の記述の変容からも、仮説2について一定の成果があったと考えられる。

生徒BのMQに対する初案と最終案	
共有前	世界中での植民地獲得競争とそれに伴う戦争を生んだ。
共有後	19世紀に帝国主義政策を推し進め、経済的な繁栄を手にしたイギリスをモデルとして、ヨーロッパを中心とした各国で植民地を獲得する動きが起きた。また、結果的にそれに伴う戦争が発生した。

ウ 仮説3に関する分析

「今まで自分で計画を立てたり、計画を見直したりしながら学習を進めてきたことがある。」				
	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
単元始	15%	43%	24%	18%
単元終	24%	48%	21%	7%

肯定的な回答が増加しており、仮説3について一定の成果があったと分析できる。また、個人ワークシートの記述によると、約70%の生徒は、最初に立てた学習計画から一度も調整することなく学習を進められたとしていた。一方、約30%の生徒は、2回以上学習計画の調整が必要であったとしていた。学習計画を調整した理由としては、「学びのプロセス」ファイルに入力するのに時間がかかったなどを挙げるものが多かった。一方、大半の生徒は計画通りに進められたとしたが、計画通りに進められたとした生徒であっても、自らの学習活動を適切に評価できているか見取ることが、今後の課題である。

実践事例3 「日本史探究」

教科名	地理歴史	科目名	日本史探究	学年	第2学年
-----	------	-----	-------	----	------

(1) 単元名、使用教材

- ア 単元名 武家政権の成立
- イ 使用教材 教科書、資料集、史料集

(2) 単元の目標

- ア 武家政権の成立と展開、産業の発達、宗教や文化の展開などを基に、武家政権の伸張、社会や文化の特色を理解するとともに、自ら史資料を収集・取捨選択し、複数の史資料を読解することで、課題の解決に向けて必要な情報を取りまとめる技能を身に付ける。
- イ 公武関係の変化、宋・元（モンゴル帝国）などユーラシアとの交流と経済や文化への影響などに着目して、主題を設定し、中世の国家・社会の展開について自分の意見を構想し、他者と意見を共有しながら深化させ、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを、根拠を示して表現する。
- ウ 武家政権の成立について、主体的に課題を解決しようとする態度を養う。

(3) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
・武家政権の成立と展開、産業の発達、宗教や文化の展開などを基に、武家政権の伸張、社会や文化の特色を理解し、自ら史資料を収集・取捨選択し、複数の史資料を読解することで、課題の解決に向けて必要な情報を取りまとめる技能を身に付けている。	・公武関係の変化、宋・元（モンゴル帝国）などユーラシアとの交流と経済や文化への影響などに着目して、中世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性などを考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期など根拠を示しながら自分の意見を構想し、他者と意見を共有しながら、深化させ、表現している。	・中世の日本と世界について見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら主体的に課題を追究しようとしている。

(4) 単元の指導と評価の計画（10時間扱い）（○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」）

時間	学習活動	評価の観点			評価規準 (評価方法など)
		ア	イ	ウ	
【単元を貫く問い（MQ）】 “武者の世”とは、どのような世の中なのか ～中世の多様な権威や権力の中で、武士は政治的、経済的にどのように権力を拡大したのだろうか～					
第1時 ～ 第4時	・中世の国家と社会の進展について、MQに対する仮説を立て学習の見通しを立てる。 ・中世の国家と社会に関する様々な出来事を、講義を聞いて確認する。 ・史資料を読み、理解を深める。	○			・中世の国家と社会の進展について理解している。 【定期考査】（ア）知識
第5時 ～ 第9時 (本時)	・MQを考える手掛かりとなる問い（SQ）を基に学習計画を立てる。 ・各自の計画に基づいて資料集やインターネット等から、自ら史資料を収集・取捨選択する。 ・収集・取捨選択した史資料を読み、中世の国家と社会の進展について理解する。 ・MQに関する様々な情報をまとめて、表現する。	●	●		・自ら史資料を収集・取捨選択し、複数の史資料を読解することで、意見の構想に必要な情報を取りまとめる技能を身に付けている。 【「学びのプロセス」ファイル】（ア）技能 ・自ら収集・取捨選択した史資料を読解し、意見の構想に必要な情報をまとめて表現している。 【「学びのプロセス」ファイル】（イ）

	<p>【単元を貫く問いを考える手掛かりとなる問い（SQ）】（史資料は生徒が自ら収集・取捨選択した）</p> <p>①鎌倉幕府の成立時期に複数の説があるのはなぜか ②武士は政治的、経済的にどのように権力を拡大したのか ③御家人とはどのような存在か ④朝廷と幕府はどのような関係を築いたのか、その関係性はどのように変遷していったのか ⑤御成敗式目の制定は当時の社会にどのような影響を及ぼしたか ⑥鎌倉時代に新たな宗教や文化の潮流が生じたのはなぜか ⑦鎌倉時代における輸入貨幣の流通は、社会やそこで生きる武士にどのような影響を及ぼしたか ⑧院政期の権力構造と鎌倉幕府の共通点・相違点は何か ⑨平氏政権と異なって、頼朝政権が最初の安定した武家政権（幕府）となりえたのはなぜか</p>			●	<p>・その日の学習を振り返り、次時に向け学習計画を調整する。</p> <p>・中世の国家と社会の進展について自分の意見を構想するために、学びの見通しを立てて、学習計画を調整している。 【「学びのプロセス」ファイル】（ウ）</p>
第10時	<p>・MQに対する自分の意見を構想し、他者と意見を共有することで考えを深化させ、その内容を表現する。</p> <p>・本單元における自らの学びの過程を振り返る。</p>			○ ○	<p>・中世の国家と社会の進展について、自分の意見を構想し、他者との共有を通して深化した自分の意見を表現している。 【「学びのプロセス」ファイル】（イ）</p> <p>・課題について、学習の振り返りを行っている。 【「学びのプロセス」ファイル】（ウ）</p>

(5) 本時（全10時間中の7時間目）

ア 本時の目標

- ・自ら資料を収集・取捨選択し、複数の史資料を読解する学習活動を通して、授業者が設定した単元を貫く問いを考える手掛かりとなる問いや、学習者が自ら立てた問いに対する意見を構想し、表現する。
- ・学習を振り返り、次時に向けて学習計画を調整する。

イ 本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法
5分	・前時に立てた学習計画を確認し、本時の学習の見通しを立てる。	・これまでの学習で生まれた疑問をその時間の取り組む課題としてもよいことを伝える。	
35分	<p>・各自の学習計画に沿って学習を進める。 [考えられる学習活動]</p> <p>・各自の計画に基づいて資料集やインターネット、生成AI等を利用して自ら史資料を収集・取捨選択する。</p> <p>・複数の史資料を読む。</p> <p>・課題に応じた内容をまとめる。</p> <p>・他の生徒の意見と自分の意見を比較して検証する。</p>	<p>・生徒が自由に調べられるように、複数の史資料を後ろの机に並べておく。</p> <p>・一人1台端末等を活用し、史資料を収集・取捨選択できるように助言をする。</p> <p>・「学びのプロセス」ファイル内の共有シートを活用し、生徒自身が他の生徒のこれまでの学習などの確認、状況に応じて協働学習を行い自分の考えを比較することができるように助言をする。</p>	<p>・自ら史資料を収集・取捨選択し、複数の史資料を読解することで、意見の構想に必要な情報を取りまとめる技能を身に付けている。 【「学びのプロセス」ファイル】（ア）技能</p> <p>・自ら収集・取捨選択した複数の史資料を読解し、意見の構想に必要な情報をまとめて表現している。 【「学びのプロセス」ファイル】（イ）</p>
10分	<p>・「学びのプロセス」ファイル内の個人ワークシートに本時の学習の成果を入力する。</p> <p>・本時の学習を振り返り、次回に向けての学習計画を調整し、学習の見通しを立てる。</p>	<p>・「学びのプロセス」ファイルを活用し、何人かの学習の成果を紹介することで、共有する。</p> <p>・学習計画を調整する際、他の生徒の学習記録なども確認するように指示する。</p>	<p>・中世の国家と社会の進展について自分の意見を構想するために、学びの見通しを立てて、学習計画を調整している。 【「学びのプロセス」ファイル】（ウ）</p>

(6) 本時の振り返り

意見を構想するに当たり、多くの生徒は自らが所有している教科書や資料集、史料集に加えて、授業者が用意した資料集や史料集、書籍等も活用しながら構想に必要な図や表、史料を収集・取捨選択していた。生徒が選択した史資料の例として、「鎌倉幕府の機構整備

過程」や「朝廷と幕府の二元支配」、『吾妻鏡』等が挙げられる。また、インターネットや生成AIを活用して収集した史資料や投稿された動画を参照したり、論文を探し出して読んだりする生徒も約半数ほどいた。さらに、共有シートを参考に、他の生徒に意見を聞きに行く生徒や、複数人で協働的に取り組もうとする生徒、授業者との対話を通して理解を深めていく生徒も一定数見られた。

(7) 単元の振り返り

仮説1～3について、単元の始まりと終わりに実施したアンケートの結果を分析した。

ア 仮説1に関する分析

「問いに対して自分で考えて史資料を収集・取捨選択している。」				
	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
単元始	6%	30%	28%	36%
単元終	58%	37%	2%	3%
「複数の史資料から分かることを効果的にまとめている。」				
	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
単元始	6%	38%	36%	20%
単元終	43%	47%	7%	3%

肯定的な回答をした生徒が増加している。また、以下の生徒の記述等からも、単元を通して仮説1で求められた力を身に付けさせることができたと分析できる。

生徒AのSQ3に対する回答	
(収集した資料 北爪真佐夫「鎌倉幕府体制下の諸身分について」、勅使河原拓也「鎌倉幕府の御家人制と地域支配」)	
御家人とは従来武士が幕府などに忠誠を誓い、恩賞をもらって主従関係を結ぶと考えられていたが、御家人は地域における将軍などの支配・代行などの仕事も行ったと考えられている。日本の中でも東国と西国で役割が違い、東国では幕府との関連が強く、領地や軍役などを早くに制度化をしていたが、西国は幕府の支配下に置かれるのが後発的であり御家人の役割にも違いができていた。そして御家人は後の治承の乱をきっかけに制度化が本格的になり、御家人は幕府、将軍において欠かせない存在になることとなった。	

イ 仮説2に関する分析

「自分が考えたことを、言葉や文章で表現している。」				
	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
単元始	20%	42%	27%	11%
単元終	60%	34%	3%	3%
「他の人と相談して、自分の考えを深めるようにしている。」				
	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
単元始	21%	49%	19%	11%
単元終	35%	46%	12%	7%

肯定的な回答が増加している。以下の生徒の記述の変容からも、仮説2について一定の成果があったと考えられる。

生徒BのMQに対する初案と最終案	
共有前	朝廷の貴族中心的な体制から、将軍が武士をまとめ、武士を中心とする軍事的な政治体制が確立していく社会。
共有後	朝廷の貴族中心的な体制から、守護地頭の設置によって、鎌倉幕府全体では支配領域の拡大を図り、御家人は守護地頭に任命されることで、年貢を徴収するなどして荘園を管理し、力を付けていった。また将軍は御恩と奉公で主従関係を築く封建制度で武士をまとめ、武士を中心とする軍事的な政治体制を形成していく社会。

ウ 仮説3に関する分析

「今まで自分で計画を立てたり、計画を見直したりしながら学習を進めてきたことがある。」				
	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
単元始	27%	47%	17%	9%
単元終	42%	48%	8%	2%

肯定的な回答が増加しており、仮説3について一定の成果があったと分析できる。

また、個人ワークシートでは約34%の生徒が最初に立てた計画から一度も調整することなく進められたとしている一方、約21%の生徒は2回以上学習計画の調整が必要であったとしていた。特に、調整が必要であったとした生徒が多かった事例として以下の3点が挙げられる。

- ・考えを構想するにあたり、不十分な情報を補うために新たな史資料を探そうとしている。
- ・理解をより深めるために考えたいことが出てきた。
- ・取り組むSQの順番や取り組むSQそのものを再考する。

これらより、学習計画を立て調整しながら進める活動は、生徒が課題に対して主体的に追究しようとすることに効果的であったと考えられる。一方、計画を修正しながら進められなかった生徒や、SQから発展させてMQについて考えることに難しさを感じた生徒がいた点は、改善が必要である。また、史資料を収集する際のインターネットや生成AIの使い方や、史資料の特徴を踏まえた批判的な見方等についても考慮する必要がある。

VI 研究の成果

1 史資料の収集・取捨選択能力、読解力と課題に応じた内容を取りまとめる力の育成

提示された史資料を自ら収集・取捨選択し、複数の史資料を読解する学習活動に取り組むことにより、課題の解決に向けて必要な情報を取りまとめることができるようになったことが、「学びのプロセス」ファイルの記述やアンケート結果から分かった。さらに、動画コンテンツ、生成AI、学術論文等を活用して根拠を探すなど発展的に学びを深める生徒が多く見られた。また、どんな史資料を根拠としたかを生徒や授業者が記録、共有できる「学びのプロセス」ファイルを作成したことで、令和5年度教育研究員報告書で課題とされていた「生徒が自主的に史資料を収集し、取りまとめることができる教材」の検討に資する教材を提案することができた。

2 社会に見られる課題について、協働することで自分の意見を深化させる力の育成

学習した内容を生徒間や生徒と教員間で常に共有することができる「学びのプロセス」ファイルを活用した結果、MQの解決に向けた生徒の意見の内容・分量ともに、より問いに即した内容へと改善された。学校や生徒の個性によって共有の仕方は様々であるが、他の生徒の記録内容を確認し、どうしてその記録内容になったのか聞きに行く生徒や、自身の記録内容を推敲する生徒が見られるなど、協働的に学習を進める様子が見られた。また、コミュニケーションが苦手な生徒が「学びのプロセス」ファイル上で他者の記述を参考に学習を深めていた。以上のような生徒の様子から、デジタルの力を活用して他者と意見を共有することは、生徒の協働的な学びや個別最適な学びを促し、思考を深化させる有効な授業改善であると言える。

3 学びのプロセスを自ら設計するためのデジタルの力の活用

一人1台端末で「学びのプロセス」ファイルを活用することは、それぞれの生徒が自分の

学習状況に合わせて計画を立てたり、計画を見直したりしながら自らの学びのプロセスを決定・調整する個別最適な学びを実現する上で有効な手段となった。

また、「分からないことがあっても、そのままにせず解決しようとしている。」というアンケート項目に対しても以下の表で示すように、単元前後で肯定的な変化が見られたことから、学びのプロセスを生徒が設計できるようにすることは、主体的に粘り強く課題を解決しようとする態度を身に付ける上でも有効な手段であると言える。

		「分からないことがあっても、そのままにせず解決しようとしている。」			
		あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
A校	始	21%	64%	7%	8%
	終	38%	31%	23%	8%
B校	始	32%	50%	15%	3%
	終	52%	41%	0%	7%
C校	始	20%	38%	29%	13%
	終	45%	37%	15%	3%

Ⅶ 今後の課題

1 史資料の収集・取捨選択能力、読解力と課題に応じた内容を取りまとめる力の育成

三つの検証授業では、生徒の実態に応じて、授業者があらかじめ授業ワークシートなどに史資料を提示する授業と、授業者が史資料を提示せず、資料集やインターネット等を利用して生徒が自由に史資料を収集して根拠とできる授業を行った。今後は、生徒が自分に適した方法で、より自由に史資料の収集・取捨選択ができるように多様な学びの手段を提供することが必要である。

2 社会に見られる課題について、協働することで自分の意見を深化させる力の育成

三つの検証授業では、国民国家の時代や帝国主義の時代、鎌倉時代の社会に見られる課題について、自分の意見を構想し、協働することで意見を深化させる力の育成を図ってきた。一方で、「答申」では、協働的な学びを発展させるために「子供一人一人が自分のペースを大事にしながら共同で作成・編集等を行う活動や、多様な意見を共有しつつ合意形成を図る活動」などが示されており、今後は、こうした活動をさらに充実させていくことが課題となる。

3 学びのプロセスを自ら設計するためのデジタルの力の活用

三つの検証授業では、「学びのプロセス」ファイルを活用し、生徒が自ら学びのプロセスを決定しながら学習を進めた。「学びのプロセス」ファイルの記述や授業の取組を分析すると、生徒は単元が始まる前に学習計画を立てることはできたが、自らの学習を適切に振り返り、計画通りに学習が進まなかったときに調整するための記録が十分ではなかった。また、学習計画の調整を必要としなかったと答える生徒も散見されており、生徒が自己の学びを適切に評価できていたか見直す必要があると考えられる。今後の課題として、「学びのプロセス」ファイル上で生徒が自身の学びを適切に評価、調整できるようなルーブリックの作成、生徒が時間に余裕をもって取り組める単元指導計画の改善などが必要である。

令和7年度 教育研究員名簿

高等学校・地理歴史

学 校 名	職 名	氏 名
千代田区立九段中等教育学校	教 諭	千 葉 健太郎
東京都立新宿山吹高等学校	主 任 教 諭	◎成 瀬 大 地
東京都立足立新田高等学校	主 任 教 諭	金 子 啓 一
東京都立大森高等学校	主 任 教 諭	伊 藤 和 明
東京都立墨田川高等学校	主 任 教 諭	仁 上 雄 貴
東京都立総合芸術高等学校	主 任 教 諭	新 山 悠 太
東京都立三宅高等学校	教 諭	石 川 幸 佑

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部高等学校教育指導課

課長代理 小島 一基

令和7年度
教育研究員研究報告書
高等学校・地理歴史

令和8年3月

編 集 東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6869